

2020 年度

就労移行支援/就労定着支援 事業所

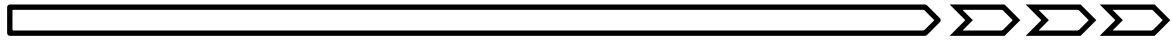
ウィング・ビート

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目 次



1. 法人概要と事業の沿革	P2
2. 2020 年度 事業目標と事業報告	P5
3. 2020 年度 事業の詳細分析	P8
(1) 利用者数の概況と推移	
(2) 見学から施設利用への推移	
(3) プログラムについて	
(4) 就労支援と定着支援	
(5) 地域課題・福祉課題に向けた取り組み	
(6) 研修・会議の状況	
4. 2021 年度 事業目標	P26

1. 法人概要と事業の沿革

社会福祉法人電機神奈川福祉センター設立の経過

1972年、電機連合神奈川地方協議会（以下、神奈川地協）は、第20回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始しました。神奈川地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合です。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながりました。

この活動を20年にわたり続けてきた間、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきましたが、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていました。

そこで、学校卒業後の進路の問題を、神奈川地協の障がい福祉活動の新たな展開とすべく、1991年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、翌1992年に「横浜南部就労支援センター（当時、就労援助センター）」の事業を開始しました。その後、1995年3月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受け、1996年8月より通所授産施設「ぽこ・あ・ぽこ」の事業を開始しました。以後、神奈川県内で様々な事業を展開しています。

社会福祉法人電機神奈川福祉センター 運営方針

私たちの目指すもの	使命と誓い
<ul style="list-style-type: none">● 障害者の社会的自立をめざす● 地域福祉の充実をめざす● 福祉に対する啓発	<ul style="list-style-type: none">● 最善・最適な幸福の提供● 絶えざる研鑽と成長

社会福祉法人電機神奈川福祉センター 沿革

年	法人の事業等
昭和47年(1972年)	電機連合神奈川地方協議会（当時：電機労連）定期大会で心身障害児・者対策運動決議
平成3年(1991年)	電機連合神奈川地方協議会定期大会で社会福祉法人電機神奈川福祉センター設立決議
平成4年(1992年)	横浜南部就労支援センター（当時：援助センター）開所
平成7年(1995年)	社会福祉法人認可
平成8年(1996年)	知的障害者通所授産施設「ぽこ・あ・ぽこ」開所 横浜市新杉田地域ケアプラザ開所
平成9年(1997年)	湘南地域就労援助センター開所

年	法人の事業等
平成 10 年(1998 年) 〈雇用促進法改正： 知的障害者雇用義務化〉	中部就労援助センター開所（当時：川崎北部地域就労援助センター）
平成 11 年(1999 年)	在宅介護支援センター開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ） ふれあいショップいそっぷ開店
平成 12 年(2000 年) 〈介護保険法施行〉	居宅介護支援事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ） 通所介護支援事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ）
平成 13 年(2001 年)	社会事業授産施設「川崎市わーくす大師」を川崎市より受託 生活支援事業受託（湘南地域就労援助センター）
平成 15 年(2003 年) 〈障害者基本法施行〉	NPO 法人障害者雇用部会発足
平成 18 年(2006 年) 〈障害者自立支援法施行〉	地域包括支援センター受託（横浜市新杉田地域ケアプラザ） ふれあいショップいそっぷ閉店 就労移行支援事業・就労継続支援事業B型開始（ぼこ・あ・ぼこ、川崎市わーくす大師） 神奈川県生活支援事業受託（湘南地域就労援助センター）
平成 20 年(2008 年)	生活支援センターわーくす大師開始（川崎市わーくす大師）
平成 22 年(2010 年)	自立訓練事業（生活訓練）開始（ぼこ・あ・ぼこ） 障害者就業・生活支援センター受託（湘南地域就労援助センター、中部就労援助センター）
平成 23 年(2011 年)	川崎市地域活動支援センター開始（ウィング・ビート） 湘南地域就労援助センター 移転
平成 24 年(2012 年)	全国就労移行支援事業所連絡協議会発足
平成 25 年(2013 年) 〈障害者総合支援法施行〉	生活支援センターわーくす大師閉鎖（川崎市の相談支援センター整備に伴う）
平成 26 年(2014 年)	ウィング・ビート 川崎市地域活動支援センターから就労移行支援事業へ事業移行・移転
平成 27 年(2015 年)	就労移行支援事業・自立訓練事業（生活訓練）開始（ミラークよこすか） 横浜南部就労支援センター 移転

年	法人の事業等
平成 28 年 (2016 年)	特定相談支援事業開始（川崎市わーくす大師） 生活支援体制整備事業開始（横浜市新杉田地域ケアプラザ）
平成 29 年 (2017 年)	ミラークよこすか 自立訓練事業（生活訓練）を廃止
平成 30 年 (2018 年) <雇用促進法改正： 精神障害者雇用義務化>	就労定着支援事業開始 （ぽこ・あ・ぽこ、川崎市わーくす大師、ウイング・ビート、ミラークよこすか）
平成 31 年・令和元年 (2019 年)	ぽこ・あ・ぽこ 自立訓練事業（生活訓練）を廃止
令和 2 年 (2020 年)	「港北はびねす工房」（旧横浜市港北福祉授産所）を横浜市より受託
令和 3 年 (2021 年)	「川崎市わーくす大師」を川崎市より民間移管 施設名を「わーくす大師」に変更

2. 2020 年度 事業目標と事業報告

2020 年度目標	2020 年度事業報告
重点目標	
<p>① 入退所の状況に関してはこれまでのデータを基に妥当性を判断し、安定した収支基盤を作ります。一方で、有する資源で提供し得る最適なサービスのバランスを考え、中長期を見据えた運営に繋がります。</p> <p>② 定着支援対象者の増加に伴い、支援体制の見直しをします。また、対象者の安定就労に向けて、効果的な仕組みづくりをします。</p>	<p>① 上半期はコロナウイルスの影響によって入所者数、就労者数ともに伸びませんでした。下半期はイベントを再開し、営業活動を強化したことで、前年度を上回る新規利用者の受け入れに繋げることができました。また既存取引先への求人掘り起こしを続け、下半期は7名の新規就労者を送り出しましたが、年間目標には至りませんでした。</p> <p>② 毎月の就労支援会議を職員育成の場とし、新たな定着支援事業対象者については特定の職員だけで進めるのではなく、全体で状況を共有しながらスムーズに支援できるように体制を整えました。定着支援事業対象者と対面での面談ができない時期もありましたが、オンラインによる面談や交流会を取り入れ、対面による方法以外の支援についても積極的に実施しました。</p>
1) 就労移行支援事業 (20 名定員)	
<p>① 年間 13 名以上の就労者を輩出します。</p> <p>② 1 日あたりの平均契約者数 20 名、通所率 85% を見込み、平均利用者数 17 名を目指します。</p> <p>③ 1 日あたり平均 8 名の、施設外実習による訓練を実施できるよう、既存の実習先の条件見直しや、職員体制についても検討します。</p> <p>④ 訓練フローに沿って計画的に施設外実習の機会提供をします。</p> <p>⑤ 就労とその他の理由により退所となる 16 名以上の新規利用者を確保するため、既存の関係機関への営業を続けるとともに、就活アプリ等を活用しながら新規機関への営業を計画的に行います。</p>	<p>① 就労者は 11 名（上半期 4 名、下半期 7 名）でした。</p> <p>② 平均通所率は 86.4%、1 日当たりの平均利用者数は 19.0 名でした。</p> <p>③ コロナウイルスの影響で中止している実習先の代替も兼ね、外部企業から事務作業を受注し、施設内での実践的な訓練を拡充しました。</p> <p>④ 6 月以降は施設外実習の機会を積極的に増やし、年間の施設外実習参加実人数は令和元年度を超える 29 名でした。</p> <p>⑤ 新規利用者数は 14 名でした。既存の関係機関だけではなく新たな機関に対しても営業活動を継続し、新規機関からの 2 名を含む 10 名の新規利用者を迎えました。</p>
2) 就労定着支援事業	
<p>① 定着支援事業対象者の増加に伴い、職員配置等を見直します。</p> <p>② 就労者イベントへの集客状況と対象者アンケートを元に、年間の実施計画について時間や</p>	<p>① 上半期に新規の就労者が少なかったことから、定着支援事業対象者数の大幅な増加はありませんでした。働き方の変化が大きい就労者もいたことから、毎月対象者一人ひとりの状況を確認し、困りごとのヒアリングを行いました。自宅待機をしている対象者に関しては、賃金の取り扱いや出勤の見通しを、在宅勤務者には働き方を確認しました。</p> <p>② 就労者が集まるイベントの代替としてオンライン交流会を月 1 回実施しました。毎回テーマ</p>

<p>内容を再検討します。</p> <p>③ 毎月の支援実施率 100%を目指します。</p> <p>④ 障害者雇用全体の採用時の条件について広く情報を集め、発達障害のある方のキャリアアップニーズに合わせて、入社後もスキルや経験が広げられる仕事へのマッチングをします。雇用条件や入社後の職種変更についても、継続的に就業先と話し合います。</p>	<p>を変え、参加者の意見や要望を取り入れて進めました。</p> <p>③ 定着支援実施率は 100%でした。</p> <p>④ テレワークを導入した働き方に変更となった就労者に向け、機器操作の不安がある方には交流会等で使用方法や使用する上での課題・対策を共有しました。またオンライン面談を行ったことがない方は個別に施設に案内し、使い方を教えることで、万が一就労先で必要になった際にも対応できるようサポートしました。</p>
--	--

<p>3) 運営全体</p>	
<p>① 職員の育成計画を基に、定期的な部署内研修を実施します。</p> <p>② 都内、神奈川県内の大学や専門学校に向けて広報活動を行い、進路選択の 1 つとして認知され、利用に繋げる事を目指します。</p> <p>③ 発達障害者の就労支援について、地域に向けた情報発信を行います。</p> <p>④ 安全衛生委員会活動と連動し、施設内プログラム、及び施設外実習における災害ゼロを目指します。</p> <p>⑤ 企業と連携し、発達障害の雇用や就労支援に関する啓発・情報交換が出来る取り組みを実施します。</p> <p>⑥ 川崎市内を中心とした関係機関と連携し、発達障害者支援の情報収集を行います。</p>	<p>① 各職員による部署内研修を計画通り実施しました。それぞれの役割や得意分野の内容に合わせたテーマを設け、職員全体で知識を深めました。</p> <p>② 大学関係者を対象にしたオンライン見学会を開催しました。普段の利用者やプログラムの様子が伝わるように工夫し、その後に 1 件の個別相談を頂きました。</p> <p>③ 毎年 3 回実施している、地域に向けたイベント「就活アプリ」について、上半期は中止としましたが、下半期は予定通り 2 回実施し、計 6 名の参加がありました。</p> <p>④ 通院につながるような災害は 0 件でした。</p> <p>⑤ 毎年開催していた、企業の方を交えた発達障害者雇用合同研修会や年 2 回の企業見学会は、社会情勢を鑑み、中止としましたが、採用に向けた個別の企業見学や実習の機会を利用者に提供しました。</p> <p>⑥ 中部地区就労支援ネットワーク会議に参加し、川崎市内の関係機関との情報交換を行いました。企業とのオンラインによる定着支援について、地域の関係機関に向けて発表しました。</p>

<p>【新型コロナウイルス感染症の影響と対応】</p>	
<p>① 利用者の施設利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4 月 13 日～5 月 31 日 全利用者に通所訓練の自粛を検討していただく内容のお知らせを配布しました。在宅訓練として、就職に向けた自己分析やテーマ別の資料作成などのワークプリントに取り組んでいただき、1 日 1 回以上の電話連絡で進捗確認と状況共有を行いました。また、通所希望者（11 名～19 名）は分散・短縮時間で受け入れ、10 時～12 時、13 時～15 時の 2 部制で個別プログラムのみのサービス提供を継続しました。 職員も 1 日の出勤人数を 4 名とし、在宅勤務を交えたシフトで勤務しました。 ● 6 月 1 日～6 月 30 日 引き続き、2 部制を継続しました。また 6 月 15 日より、余裕を持った座席配置と定期的な換気を行いながら、希望者は通所時に事業所内で昼食を摂れるようにしました。 7 月からの通常営業に向けて、室内での ZOOM 活用や通所時間の前倒しなども行いました。 ● 7 月 1 日～ すべての利用者が 9 時～15 時の通常訓練に戻りました。ただし、外部実習、集団プログラムに関しては社会情勢を踏まえながら段階的に再開としました。現在も運動プログラムや、幼児と接触の可能性がある保育園の清掃は中止したままとしています。 職員も通常の週 5 日出勤による勤務体制に戻しました。 新たに来館者名簿を作成し、記録を残しています。 	

- 1月13日～
2回目の緊急事態宣言が発出されましたが、通常営業を継続しました。万が一の事態に備えて事業所専用のBCPを作成し、職員間で徹底しました。また昼食時の利用者の座席を指定し、黙食を推奨しています。

② 感染防止への対応

- 土日を含めた検温の実施、健康チェックシートの提出徹底
- 手指消毒、マスク着用の徹底
- ソーシャルディスタンス確保のための昼食時の座席指定
- ロッカー使用時の人数制限
- 来館者の名簿作成
- 職員による定期的な換気の実施
- ZOOMを使用した、集団プログラムの分散同時実施
- オンライン面談、就労者の交流会の実施

3. 2020 年度 事業の詳細分析

(1) 利用者数の概況と推移

年間の実契約者数は 35 名でした。数字は該当月の月末時点での人数です。

表 1 契約者と新規利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月間契約者数	23	23	23	21	21	21	22	21	21	20	22	24	21.8
新規利用者数	2	1	0	0	1	0	1	2	2	0	3	2	1.1

単位：名

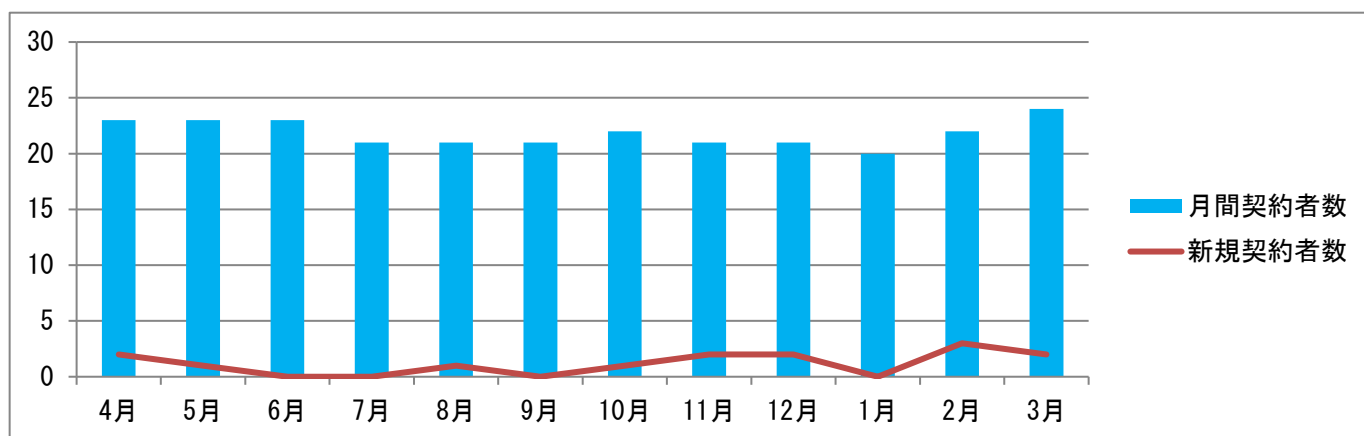


図 1 年間の利用者数推移

表 2 2021 年 3 月末時点の内訳

項目		人数
契約利用者数		24 名
性別	男	15 名
	女	9 名
年齢	最低	19 歳
	最高	47 歳
平均年齢		27.5 歳

① 障害程度の分布(重複の場合は主たる障害で分類)

利用開始時に障害者手帳未取得であっても、利用後に手帳を取得される方がいます。

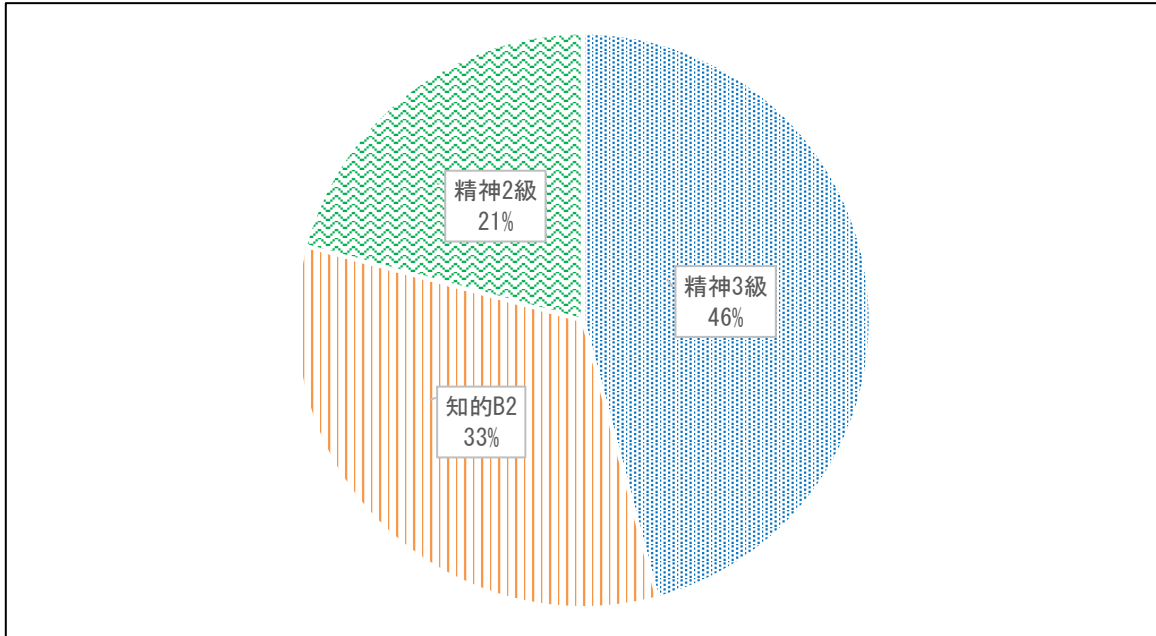


図 2 障害程度の分布(2021年3月末時点)

② 最終学歴

大学を卒業している方が半数以上を占めていますが、高等学校や専門学校を最終学歴としている方も2割ほどいます。

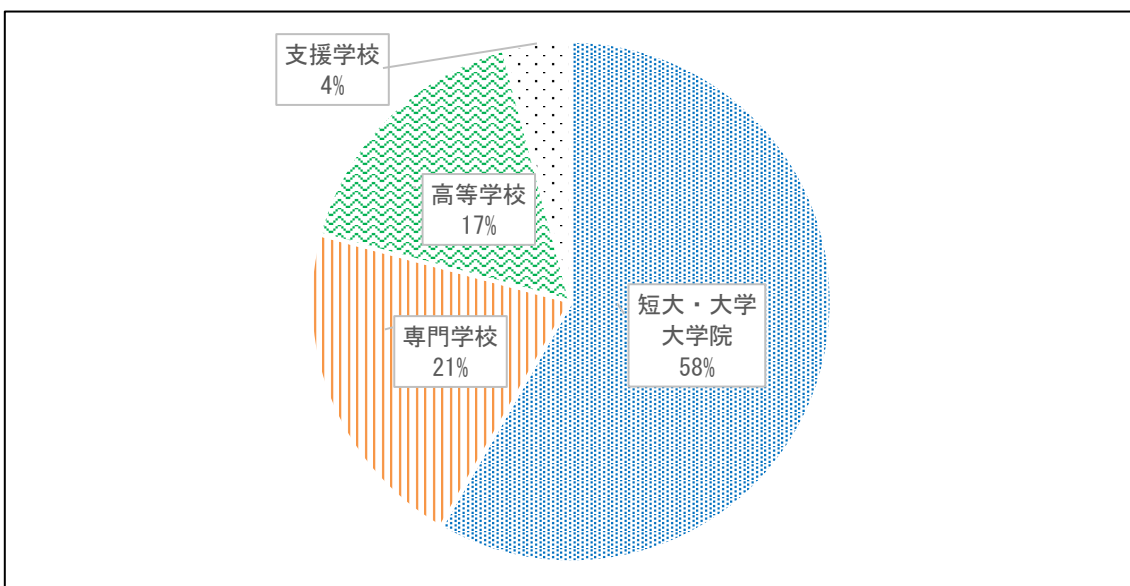


図 3 最終学歴の分布(2021年3月末時点)

③ 居住区の分布

横浜市在住の方が5割を占めています。川崎市内においては中原区以北のエリア在住の方が中心です。

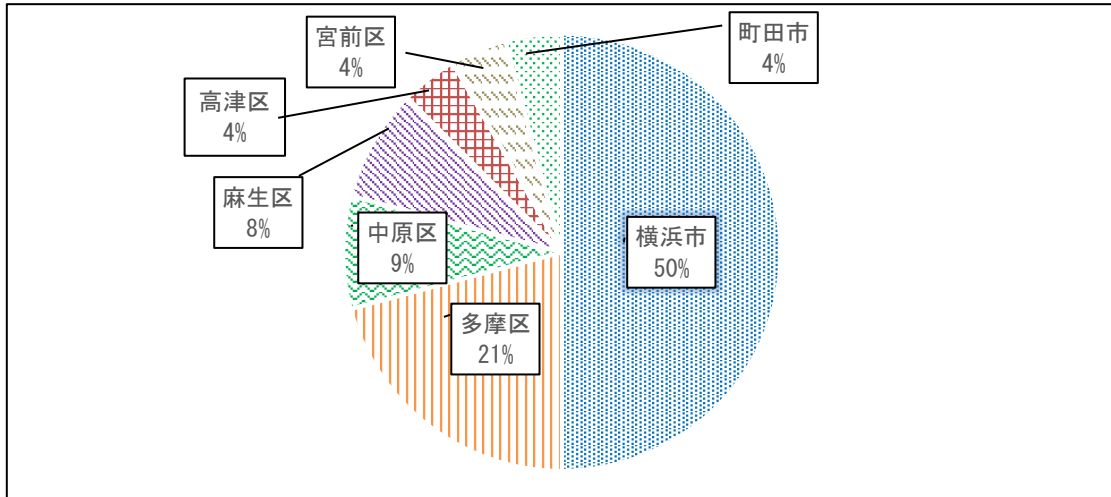


図 4 居住区の分布 (2021 年 3 月末時点)

④ 紹介経路

障害のある方を対象とした就労支援機関からご紹介されるケースが全体の5割を占めています。「その他」には、直接ご本人・ご家族からご相談いただいたケースや、再利用ケースが含まれます。

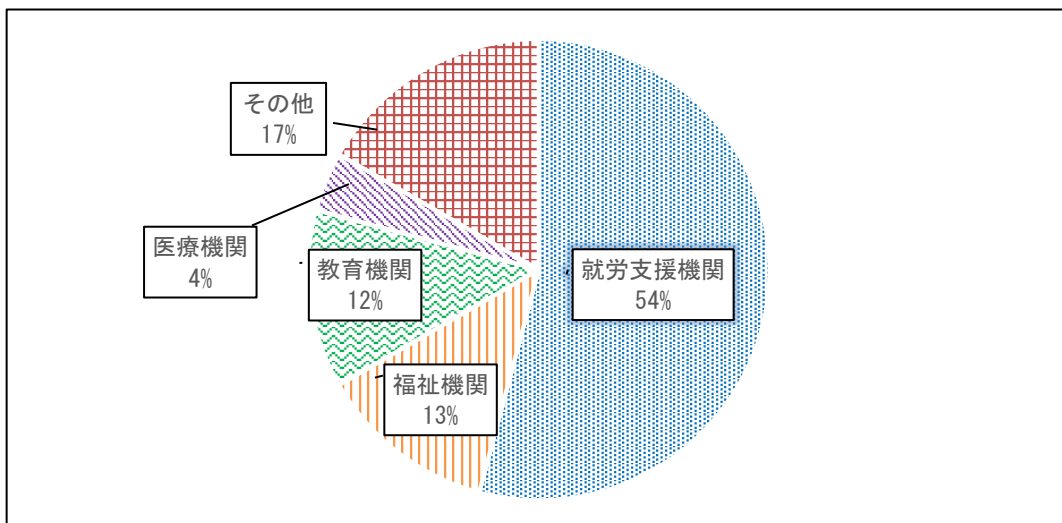


図 5 紹介経路の分布 (2021 年 3 月末時点)

(2) 見学から施設利用への推移

利用を検討する為の施設見学者数は32名でした。そのうち実習につながった方が20名で、実習修了から本利用につながった方は12名でした。前年度は、実習から本利用につながった方は4割程度でしたが、今年度は7割の方が本利用に繋がりました。見学対応時は、ウィング・ビートの強みである集団プログラムを見学してもらえるように、日程調整・案内をしています。実習生に対しては、プログラム体験毎にヒアリングをしています。ご本人が取り組み辛さを感じている時は、どうすればよりスムーズに取り組めるかを一緒に考え、具体的なアドバイスをしています。また、面談の時間を設け、これまでの経歴や、得意・不得意なこと、どのような将来像を描いているのかを丁寧に話し合います。ご本人の希望する将来像に、ウィング・ビートがどのような支援を提供できるのかを伝えています。今後も職員一同、見学・実習時の丁寧な対応を心がけていきます。

表3 見学から施設利用への推移

	利用を検討するための施設見学者数	実習受入数	実習修了者数 (実習修了者数/見学者数)	利用人数 (利用人数/実習修了者数)
2020年度	32名	20名	17名(62.5%)	12名(71%)
2019年度	63名	24名	21名(33%)	9名(43%)
2018年度	74名	30名	27名(36%)	23名(85%)

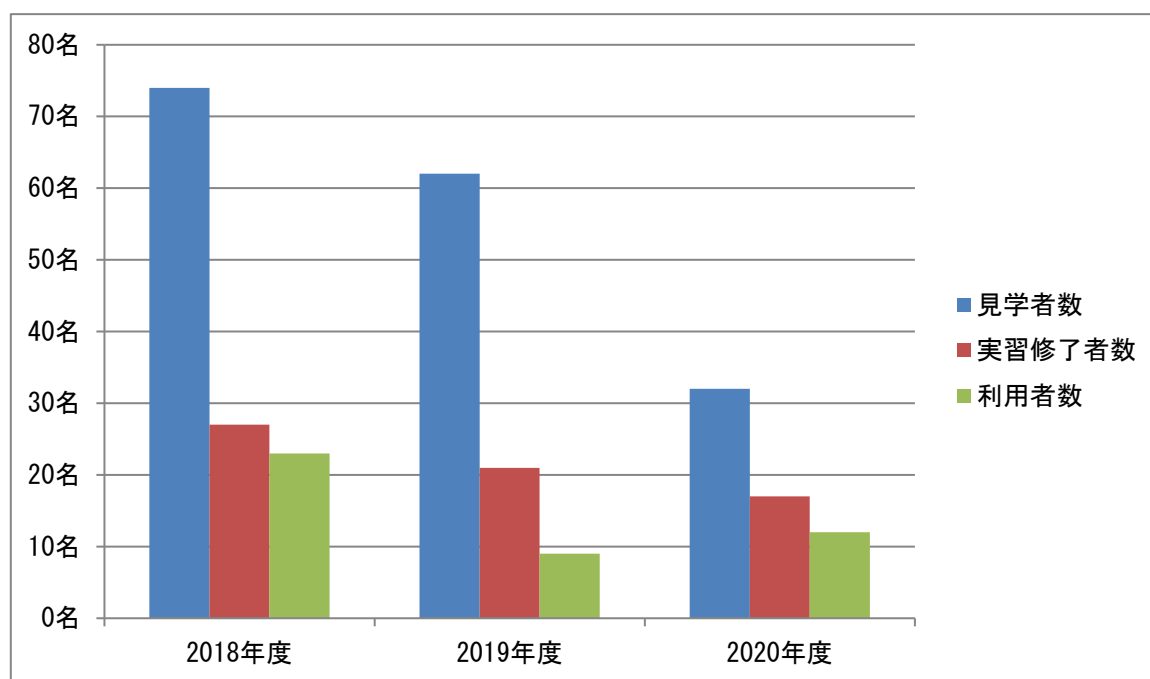


図6 見学から施設利用への推移

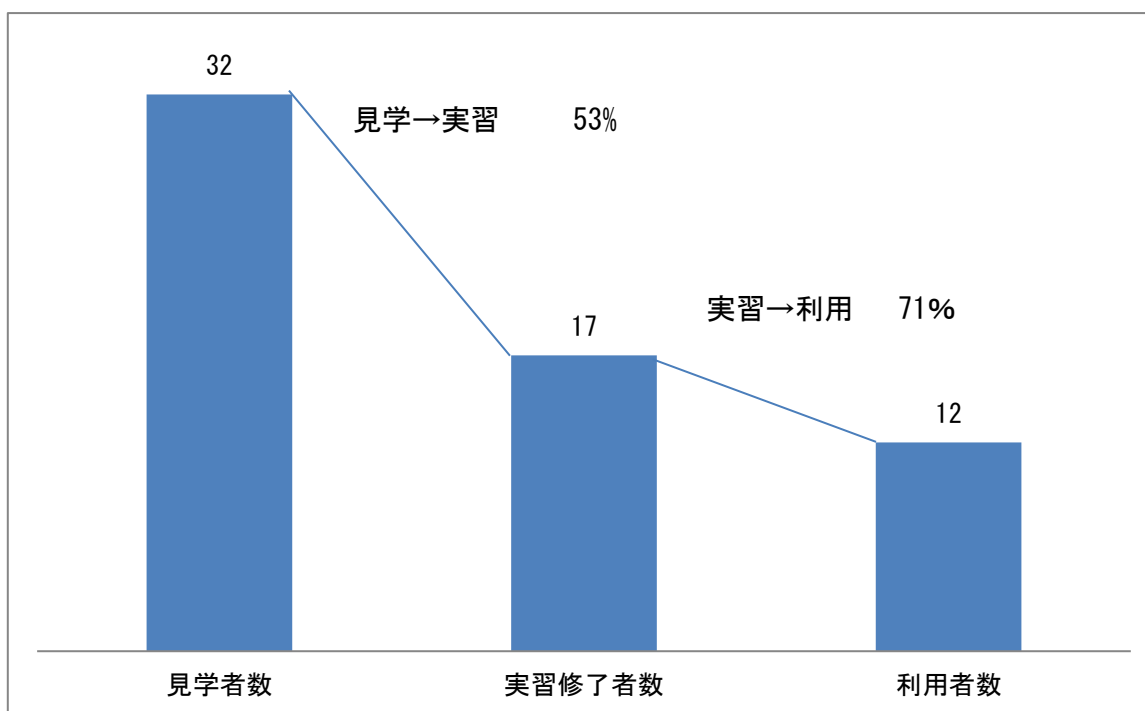


図7 見学から利用までの移行率

表4 関係機関・その他からの施設見学者の数（施設利用希望者の見学は除く）

福祉関係	教育関係	HW・区役所関係	企業・医療 その他	合計
1名(32名)	2名(18名)	1名(27名)	0名(16名)	4名(93名)

()内は前年度

2019年度は内覧会等、多くの関係機関の方々にお越しいただいたイベントがあり、93名でしたが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う断続的な緊急事態宣言等の影響により、大規模なイベントは全て中止としました。また、利用希望の施設見学を優先としていたために関係機関・その他からの見学者の数は非常に少なくなりました。2021年度は、しっかりと感染予防対策を講じながら、少しずつイベントを復活させていく予定です。

(3) プログラムについて

プログラムは9時～15時まで、3限(1コマ90分)で構成されており、水曜のみ9時～13時までとなっています。集団で行うプログラムを週3～4コマ設けており、それ以外の個別プログラムの時間は、職員が組んだスケジュールをもとに一人一人異なるプログラムを実施します。

利用者の特徴として、年齢が若く、社会経験の少ない方が多いことが挙げられます。自分に何が向いているのか、できること（できないこと）、やりたいこと（やりたくないこと）は何かなど、まずは様々な体験を通して自己理解を深め、就職に向けて、「強み・弱みの把握と必要な対策を持

つ」、「自分に自信をつける」、「社会人としての意識を高める」、「協調性、役割に対する責任感を持つ」の4点を目標にしています。

表5 週間スケジュールの例

	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日
	月	火	水	木	金
8:55	朝礼・ラジオ体操				
1限 9:00 ～ 10:30	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム	個別プログラム
休憩 2限 10:45 ～ 12:15	個別プログラム	グループワーク 「WB新聞」①	講習 「エゴグラム」	コミュニケーション 「脱出系」	個別プログラム
昼休憩 3限 13:00 ～ 14:30	個別プログラム	個別プログラム	一日の振り返り 帰宅	個別プログラム	個別プログラム
14:40～ 15:00	一日の振り返り	一日の振り返り		一日の振り返り	一日の振り返り
15:00	帰宅	帰宅		帰宅	帰宅

① 個別プログラム

個別プログラムは、その方の特性や希望に合わせて、職員が構成しています。通所開始後、まずは一通り様々な作業を体験してもらいます。得手不得手がある中でどのように作業と向き合うか、検証や対策を考えつつ職業準備性を上げられるよう、一人一人に合わせてメニューを組んでいきます。

また、個別プログラムに「マイタイム」があります。これは、決められたプログラムを行うだけでなく、この時間に何をするのか、利用者が主体的に内容と目標を設定し、計画的に進めていく力をつけることを目的としています。メニューを決めるにあたり、希望があれば職員も一緒に考えます。多くの方は、パソコンスキルの向上を目指してパソコンなどの資格取得のための学習や、障害に関する勉強をしています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により体験実習の機会が減少したことや、事務職の希望者が増加したことから、写本や音声データの文字起こし、PDFデータのテキストデータ変換業務などを外部機関から受注し、事務作業体験の機会を増やしました。

表6 個別プログラムの内容

軽作業	事務作業	清掃作業
<ul style="list-style-type: none"> ・ タオルたたみ (3種類：たたみ、三つ折り、巻き) ・ 封筒仕分け ・ 葉書仕分け ・ ピンキャッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕張式ワークサンプル OAwork (検索修正、文章・数値入力) ・ タイピング ・ 日報集計 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウィング・ビート館内清掃 ・ メディカルビル清掃

<ul style="list-style-type: none"> ・ ビーズ納品・検品 【体験実習先】 ・ 近隣図書館の書架整理 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究資料作成 (主に word・Excel ソフト使用) ・ マイタイム (資格取得・自主学習) ・ 請求書、納品書作成 ・ 交通費計算作業 ・ 冊子の文字起こし (業務請負) ・ 音声データの文字起こし (業務請負) ・ 教科書のテキスト化 (業務請負) <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【体験実習先】 ・ こども文化センター (2か所) ・ 近隣マンション ・ 近隣公園 ・ 宿泊施設 <p style="text-align: right;">など</p>
--	---	--

② 集団プログラム

集団プログラムは、講習、研究・実習発表、運動プログラム、コミュニケーションプログラム、グループワークで構成しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として運動プログラムを自粛しましたが、その他の集団プログラムについては、利用者を2部屋に分け、密にならないようオンラインミーティングツール Zoom を活用し実施しました。

【講習】

週に1回、就職・生活・安全教育・自己理解等に関する講習を実施しています。これは、社会人として必要な知識と技術を高めることを狙いとしています。また、定期的に外部講師を招き、専門家から話をしてもらっています。就職に関すること以外に、自立に向けた必要なスキルを学べる内容も設けています。

【研究・実習発表】

利用者は就職・健康生活・趣味の3つのカテゴリの中から毎月自分でテーマを設定し、個別プログラムの3コマを使用して資料を作成します。主に word ソフトでの作成となりますが、書式はなく、聴講者にとって見やすい資料になるようにそれぞれが工夫しながら作成しています。納期までに資料を仕上げ、月末に全員の前で一人一人発表します。毎月繰り返すことによって、パソコンスキルの向上だけでなく、納期までに計画的に仕事を進める意識や、発表の機会を通して人前で話すことに慣れ、自信を高めることを狙いとしています。

【運動プログラム】

2020年度は実施を自粛しました。例年は毎月2回、地域のスポーツセンターで実施しています。運動を楽しむことは土台にありますが、ボール回しや風船バレーボール等の集団スポーツを通して、集団の中での協力や役割を意識してもらい、コミュニケーションスキルの向上も目指しています。

【コミュニケーションプログラム】

話し方、聞き方、リアクション、人との距離感など、具体的な振る舞いについて学び、実践するプログラムを、月に2回程度実施しています。時事問題についての討論、ディベート、その他「ビルのテナント探し」「月面からの脱出」等のゲームや「メンバーの良いところ探し」など、楽しみながら取り組めるものもあります。

また、「上下関係・横とのつながり」では、職場を想定した実践的なやり取りのスキルを、「SNSと私」では、SNSにおける顔の見えない相手とのコミュニケーションの取り方やそのマナーについて、考える機会を設けています。

【グループワーク】

約1か月間、毎週固定したメンバーで、テーマに応じた企画の実施や成果物を作成します。グループ内で司会、資料作成、発表者等の役割を決め、担当者は責任を持って実行します。また、講習やコミュニケーションプログラムで学んだ技術を実践する場にもなっています。

表7 2020年度に実施した集団プログラムの内容

講習	コミュニケーションプログラム	グループワーク
<p>【施設利用ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用ルール ・利用から就職まで ・個別プログラム指示書変更について（計2回実施） ・集団プログラムのポイント <p>【就職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得について ・自己開拓での就活のメリット・デメリットについて ・履歴書・職務経歴書の書き方 ・ハローワークの利用の仕方 ・名刺交換・電話対応 ・一般雇用と障害者雇用について ・指示の受け方・管理方法 <p>【健康・生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で発表するときのコツ ・オンとオフの使い分け方 ・休日の過ごし方 ・社会で役立つお金の話 ・困った時のお金の話 ・パーソナルスペース ・メモの取り方 ・部屋の片付け術 ・人と食事するときのマナー ・立ち居振る舞い ・身だしなみについて ・不調時の対応 ・ストレスと睡眠 ・ストレスチェック ・危険予知 ・コロナ禍でのマナー <p>【安全教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生 ・熱中症対策 ・避難訓練（計2回実施） ・水害について ・冬の感染症 <p>【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エゴグラム ・アンガーマネジメント ・話し方の傾向 <p>【外部講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災について <p style="text-align: right;">計 38 回</p>	<p>【対人関係構築術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いを知ろう ・良いところ探し ・相談の仕方 ・上下関係や横とのつながり <p>【コミュニケーション講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事討論 ・ディベート ・思いやりメッセージ ・SNSと私 <p>【コミュニケーションを楽しもう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WHAT ・チームワークで絵を完成させよう ・月面での遭難 ・ビルのテナント探し ・Zoomを使ってみよう <p style="text-align: right;">計 21 回</p>	<p>4月 こんな時のコミュニケーション（1回のみ）</p> <p>5月～7月 実施自粛</p> <p>8月 ツアコン企画</p> <p>9月 プログラムお手本動画を作ろう</p> <p>10月 プログラムお手本動画を作ろう</p> <p>11月 お金と将来のこと</p> <p>12月 納め会企画</p> <p>1月 ウィング・ビート新聞を作成しよう</p> <p>2月 Welcome to Tokyo</p> <p>3月 食生活を見直そう</p> <p style="text-align: right;">計 28 回</p>
		<p style="text-align: center;">運動プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域散策（広域避難所の確認名所巡りなど） <p style="text-align: right;">計 1 回</p>

(4) 就労支援と定着支援

① 施設外実習

ウィング・ビートは就労を前提としない固定の施設外実習先(清掃・軽作業)が8箇所あります。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため一部実習を中止しました。2021年4月時点でも4箇所が中止となっています。実習の代替として、施設内で取り組む事務受注件数を増やしたことで、就労を前提とした企業体験実習を含め延べ1,145人が実習に参加、1日当たり4.69人の実習生を送り出しました。

2021年度も感染症予防対策を講じた上で、利用者一人一人の特性やニーズに合わせた体験実習を提供していくことを目指していきます。

表8 実習件数

延べ実習参加人数	1,148人
稼働日数	243日
1日あたりの実習者数	4.72人

表9 実習先一覧(施設内受注業務含む)

事業所名	業務内容
いすゞ自動車首都圏(株)	清掃
IBUKI 横浜ファーム2	軽作業
NECフレンドリースタフ(株)	事務、清掃
伊藤忠ユニダス(株)	軽作業
JFEビジネスサポート横浜(株)	軽作業
(株)ファンケルスマイル	軽作業
ボッシュ(株)	事務
東急リバブル(株)	事務
(株)ファミリーマート	事務
NTT・TCリース(株)	事務
日総ぴゅあ(株)	軽作業
東急不動産(株)	事務
(株)日本アメニティライフ協会	清掃
日本郵便(株)	軽作業
高津こども文化センター	定期実習 清掃
二子こども文化センター	定期実習 清掃
溝口南公園	定期実習 清掃
Empereur Beton K マンション	定期実習 清掃
川崎市役所第4庁舎	不定期実習 清掃
高津図書館	定期実習 書架整理、チェックなど

メルコリゾートサービス(株) MELONDIA あざみ野	定期実習 外館清掃
写本(受注業務)	施設内事務
テキスト化(受注業務)	施設内事務
テープ起こし(受注業務)	施設内事務

② 就職率

2020年度の退所者15名うち、11名が一般企業への就職を果たし(就労継続A型への移行は含まない)、年度内の就職率は73.3%となっています。

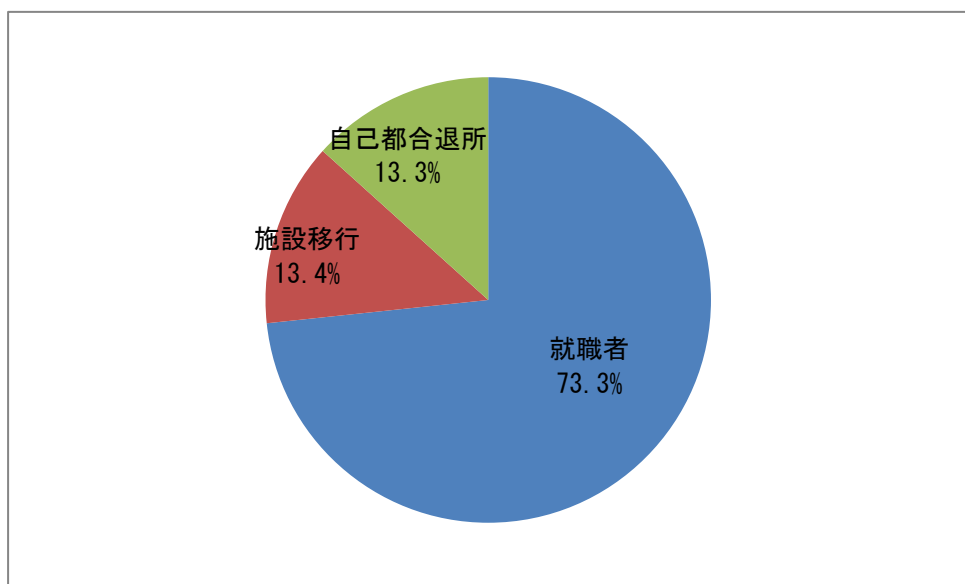


図8 就職率

③ 就労先と就労までの在籍期間

2020年度に就労された方のウィング・ビート在籍期間は、平均17.9か月となります。昨年度は平均13.5か月であったことから約半年ほど延びていることとなります。新型コロナウイルス感染症の影響によりウィング・ビートの訓練や企業の採用活動がストップしたことが要因と考えられます。

表10 就労先と訓練期間

	就労先企業名	仕事内容	WB 在籍期間
1	第一生命チャレンジド(株)	事務	12か月
2	(株)東急スポーツオアシス	事務	12か月
3	ANA エアポートサービス(株)	事務・軽作業	17か月
4	いすゞ自動車首都圏(株)	清掃	19か月

5	NTT・TC リース(株)	事務	25 か月
6	NEC フレンドリースタフ(株)	事務	24 か月
7	東急リバブル(株)	事務	16 か月
8	(株)ファンケルスマイル	軽作業	23 か月
9	東急リバブル(株)	事務	12 か月
10	(株)ファミリーマート	事務	20 か月
11	NEC フレンドリースタフ(株)	清掃	20 か月

④ 定着率

就労移行支援事業の開所以来、これまでに 77 名の就職者を輩出しました。2020 年度に就職した利用者の 1 年以内の離職者は 0 名で、直近 3 年間での在職率は 79.4%となっています。

ウイング・ビートでの訓練期間中に複数の実習を体験し、企業での体験から自身の課題を整理し、必要な対策を取りながら就職活動を進めることで、的確なジョブマッチングに繋がります。また、就労定着支援では定期的な職場への巡回訪問やご本人との面談を通し、働いて行く上での課題の解決や雇用継続に向けたサポートを行って来ました。

2020 年度は 6 名の方が離職されました。離職理由は、健康上の理由、就労意欲の低下、転職希望等様々ですが、利用対象者である発達障害者の傾向として、転職によるキャリア形成を考え離職に至るケースが、今後も一定数出てくることと思われます。転職を希望する就労者に対しては、円滑な退職支援と転職後の支援機関の紹介やケースの引き継ぎを行っていきます。

表 11 定着率

	18 年度就労	19 年度就労	20 年度就労	過去 3 年計
就労者数	12 名	11 名	11 名	34 名
21 年 3 月末時点での離職者数	4 名	3 名	0 名	7 名
在職者数	8 名	8 名	11 名	27 名
在職率	66.6%	72.7%	100%	79.4%

⑤ 就労定着支援

就労定着支援とは、就職者が安定して仕事を続けられるよう、就職後に行う支援を指します。就職前に採用担当者や現場で指導・支援して下さる社員の方々と支援内容や頻度について話し合い、本人の状況に合わせて職場訪問、本人や家族との電話等による連絡相談、面談、関係者とのカンファレンス、職場との連絡調整等を行います。トラブルがあってから対応するのではなく、日常的に本人や企業担当者様、職場の方々と情報交換をしながら、長期的に安定した勤務を続けられるように支援しています。

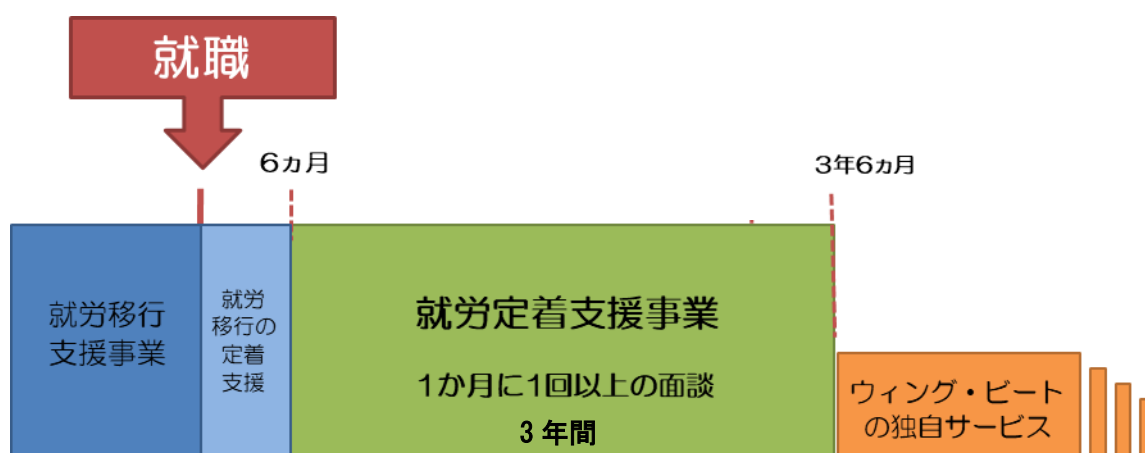


図9 就労定着支援内容

就労定着支援事業は、就職した日から6ヶ月後に利用スタートとなります。利用後は月1回以上の職場訪問、電話連絡、個別面談等により状況を把握し、相談及び助言その他の必要な支援を提供しています。就労定着支援事業を利用している方の中で、離職や転職をご希望される方もおり、意向に寄り添った支援を行っています。転職した方のケースでは、退職から次の就職先へ、時間を開けずに進めることができ、引き続き、就労定着支援事業を利用いただいています。

就労定着支援事業は就職後3年6ヶ月までとなりますが、その後もウィング・ビートが支援を続けていきます。対象となる方、ご家族が何か不安を感じた時に、いつでも相談できるような体制を取っています。

表12 定着支援事業利用者と定着率（2021年3月末時点）

2020年4月1日～2021年3月末 就労定着支援事業の 延べ利用者数(1)	(1)のうち2021年3月末時点での 就労継続者数	就労定着支援事業利用者の 定着率
41名	35名	85.4%

【マスターズ・クラブ】

ウイング・ビートから就職した利用者の同窓会イベント「マスターズ・クラブ」を定期的に開催しております。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、6月からオンラインにて開催致しました。昨年度よりも参加人数が減り、対面支援の需要の高さを感じました。

表 13 マスターズ・クラブ実施内容

	開催日程	内容	今年度参加者	昨年度参加者
①	2020年6月27日 (土)	オンライン交流会 「STAY HOME で見つけた楽しみ方」	8名	27名
②	2020年7月18日 (土)	オンライン交流会 「私の職場の新しい日常」	11名	28名
③	2020年8月8日 (土)	オンライン交流会 「自慢したいもの大集合～私のお宝、ZOOMで披露しちゃいます～」	11名	26名
④	2020年9月5日 (土)	オンライン交流会 「おすすめの映画・本・アニメを紹介しよう！！」	11名	20名
⑤	2020年10月3日 (土)	オンライン交流会 「以心伝心ゲーム・ZoomでZoom」	7名	24名
⑥	2020年11月7日 (土)	オンライン勤続表彰式&講習・交流会 「困ったときのお金のはなし」	16名	24名
⑦	2020年12月5日 (土)	オンライン講習・交流会 「新たな働き方 ～在宅勤務～」	12名	23名
⑧	2021年1月9日 (土)	オンライン講習・交流会 「社会人のマナーについて」	12名	26名
⑨	2021年2月6日 (土)	オンライン講習・交流会 「良い睡眠について」	11名	26名
⑩	2021年3月6日 (土)	オンライン講習・交流会 「SNSの活用法」	12名	未実施

【家族セミナー】

ウイング・ビート現役利用者と就労者のご家族へ情報発信のためのセミナーを年1回開催していましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、中止と致しました。2021年度は感染状況を鑑みながら開催する予定です。

(5) 地域課題・福祉課題に向けた取り組み

【就活アプリ】

地域には福祉的な支援を必要としていながら、ご本人やご家族が社会資源を知らないまま過ごされているケースや、福祉への一歩を踏み出しにくい・施設利用はハードルが高いなど、福祉に対し心理的抵抗感を抱えているケースがあります。これらの課題を抱える方々を対象とした「就活アプリ」という事業を2014年の事業所開設当初から毎年無償で開催しています。

対象

- 就労経験のない方もしくは少ない方
- 若年層で自己分析が進んでいない方
- 障害者手帳を持っておらず障害者雇用についての情報が少ない方

目的・狙い

- 各検査やそれに基づいたフィードバックを行い、自身のコミュニケーションの癖や特性、得意不得意などの自己理解を深める機会を提供する。
- 障害者雇用・福祉的就労について知り、自分に合った働き方を考える機会を提供する。
- 発達障害者が受けられる支援や社会資源について理解を深める機会を提供する。
- 施設の雰囲気を感じてもらい、施設利用の抵抗を軽減する。

表 14 就活アプリ概要

	開催日程	内容	申込数	参加数	参加者紹介内訳
①	11月11日（水） 11月18日（水）	施設訓練体験 VPI 職業興味検査 AASP 感覚検査 講義 ・働き方について考える	4名	4名	支援機関 4名
②	2月10日（水） 2月17日（水）	・働く現場を知る ・就活テクニック グループワーク ・職場での人との付き合い方 ・検査結果報告及び面談	4名	3名	支援機関 3名

今年度は、1クール2日間とし、秋・冬コースの2コースを行いました。合計7名の参加がありました。

各検査以外にも、一般就労と障害者雇用の違いや様々な働き方、面接で評価されるポイント等、就職活動を進めるにあたり必要なポイントをまとめた講習や、ウィング・ビートで実際に行っている

コミュニケーションプログラムや作業訓練を体験していただきました。また、両日ヒアリングを実施し、就職活動における困りごとを整理し、希望者には利用できる社会資源の説明などもしています。参加者の方々が今後の就職活動に活かせるよう、紹介して頂いた相談機関にも検査結果を共有しています。

終了後には参加者の皆様へアンケートにご協力頂きました。今年度は6名の方に回答を頂きました。

【就活アプリアンケート結果】

Q1 今回の就活アプリをどちらでお知りになりましたか？

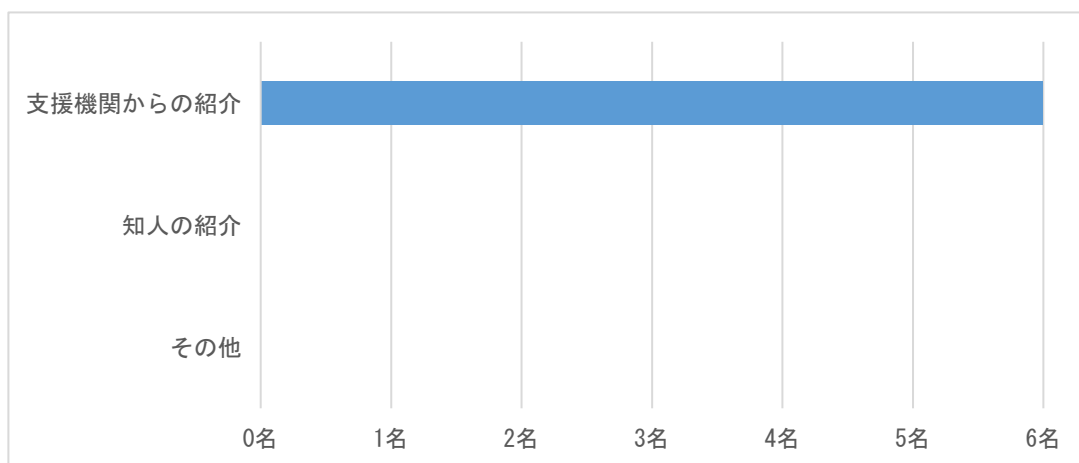


図 10 就活アプリ紹介元

Q2 参加しようと思った理由を教えてください。（複数回答可）

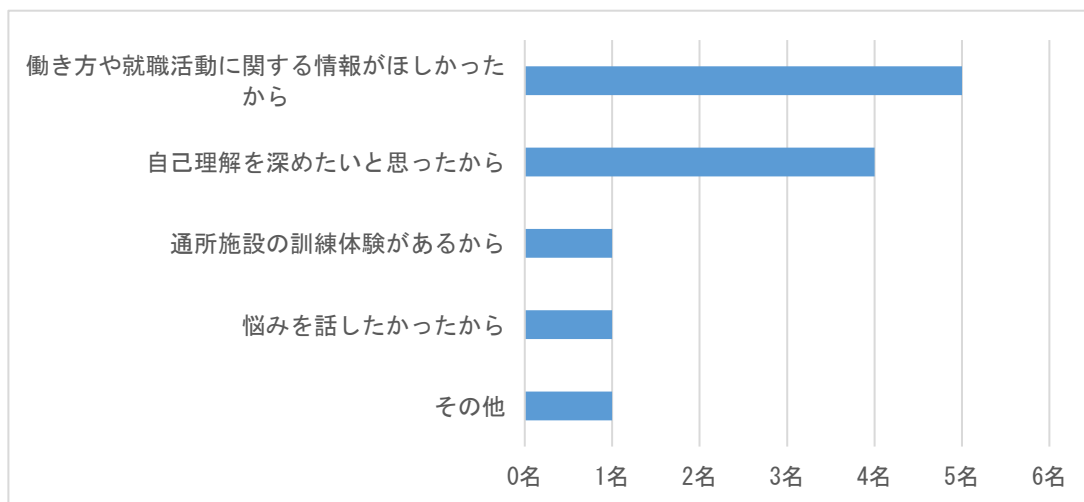


図 11 参加理由

Q3 役に立ったと思った内容を教えてください。（複数回答可）

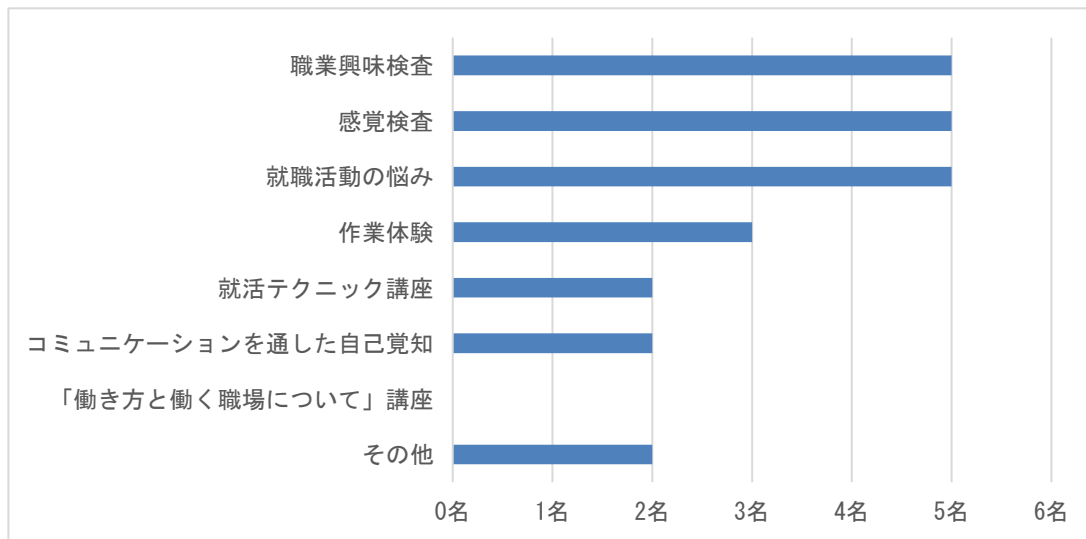


図 12 役に立ったと思う内容

Q4 今後も就活アプリがありましたら参加したいと思いませんか？

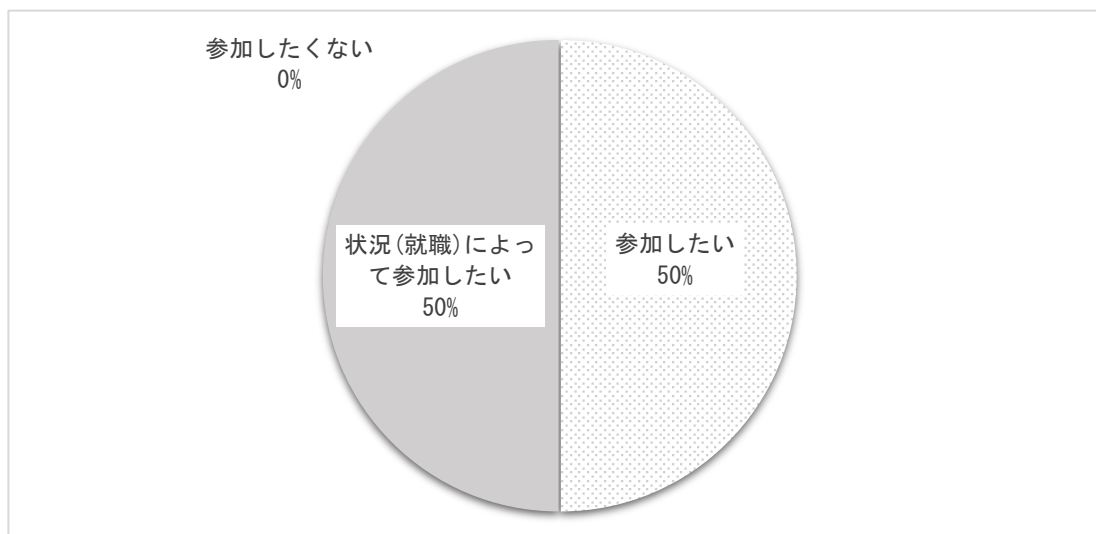


図 13 今後の参加について

Q5 「参加したい」と答えた方の理由

- 今回学んだことや知らない知識について理解を深めたいから。
- 事業所の概要や雰囲気をもっと知りたいから。

【今後に向けて】

2019年度・2020年度のアンケート結果によると、参加者の8割以上が、各検査と個別面談について、「役に立った」と答えており、満足度が高い傾向でした。その他プログラムの満足度は、各

回によってばらつきがある結果となりました。“自己理解を深めたい”“働き方や就職活動に関する情報を知りたい”との思いで参加されている方が多く、このような動向を踏まえて、「自己理解を深めるプログラム」と「働き方について知るプログラム」を中心とした構成内容を検討し、講義内容をブラッシュアップしていきます。

また、参加者の紹介元は就労援助センターが9割を占めています。引き続き就労援助センターへ周知していくとともに、各区役所、相談支援センター、若者サポートステーションなどへ積極的にアプローチをかけ、社会資源の活用に至っていない方にも情報が届くよう努めて参ります。

(6) 研修・会議の状況

新型コロナウイルス感染症の影響により外部の研修会は中止となることが多い状況でしたが、リモート参加などにより職員の資質向上を目指しました。また、全国就労移行支援事業所連絡協議会の幹事事業所として、政策提言や支援ノウハウの共有を図りました。

表 15 研修・会議参加一覧

■研修

就業支援基礎研修(1人3回、2名参加)	全国就労移行支援事業所連絡協議会 ZOOM セミナー
発達障がい応援キャラバン 2020(全4回)	中部地区集いの場
考課者研修(全3回)	第5回発達障害者支援フォーラム

■外部会議・連携

全国就労移行支援事業所連絡協議会 幹事会・総会・課題共有カンファレンス	中部地区就労支援ネットワーク会議
高津区地域自立支援協議会	就労移行支援カンファレンス 2020
川崎地区就労支援会議	川崎市就業・生活支援センター連絡会議
かながわ発達障害学生支援ネットワーク	就労移行支援事業所合同説明会
川崎市就労推進ネットワーク会議全体会	

■法人内研修

法人事業報告会	所内研修(全8回)
法人内職員交換研修	

4. 2021 年度 事業目標

<p>重点目標</p>	<p>① 利用者のニーズに合わせた施設内の事務系プログラムや施設外事務実習の充実を目指します。また効果的な在宅訓練プログラムの内容やその運用についても検討します。</p> <p>② 社会情勢を踏まえ、オンラインでの就労者定着支援や交流の場の提供について再検討します。</p>
<p>1. 就労移行支援事業 (20名定員)</p>	<p>① 年間13名の就労者を輩出します。</p> <p>② 一日あたりの平均契約者数19名、通所率85%を見込み、平均利用者数17名を目指します。</p> <p>③ 社会情勢の変化に伴い、施設外実習による訓練だけでなく実習の代替として受注している業務への挑戦を含め、一日あたり平均8名の施設外訓練を実施し、一人ひとりの訓練フローに沿って計画的に機会提供をします。事業所内の事務系プログラムを充実させ、在宅訓練を含め利用者の希望に合わせたプログラムの提供を目指します。</p> <p>④ 利用者獲得のために川崎市、横浜市の区役所に向けて定期的に利用者の状況や就労者実績の報告を行い、ケースワーカーとの連携を強化しながら、地域と信頼関係を構築します。また就活アプリ等を活用しながら新規機関への営業を計画的に行います。</p>
<p>2. 就労定着支援事業</p>	<p>① 毎月の支援実施率100%、就労者の1年定着率90%を目指します。</p> <p>② 2020年度就労者イベントへの集客状況と就労者アンケートを元に、オンラインでの面談や交流会の在り方を再検討します。</p> <p>③ 2020年度に引き続き障害者雇用全体の採用時の条件について広く情報を集め、発達障害のある方のキャリアアップニーズに合わせて、入社後もスキルや経験が上げられる仕事へのマッチングをします。雇用条件や入社後の職種変更についても、継続的に就業先と話し合います。</p> <p>④ 転職のニーズに関しては、対象者の将来に向けて就労先企業と慎重に話し合い、スムーズな退職支援と定着支援継続を目指して計画的に進めます。</p>
<p>3. 全体運営</p>	<p>① 職員の育成計画を基に、定期的な部署内研修を実施します。</p> <p>② 2020年度に引き続き都内、神奈川県内の大学や専門学校に向けて広報活動を行い、利用に繋げていくことを目指します。</p> <p>③ 安全衛生委員会活動と連動し、施設内プログラム、及び施設外実習における災害ゼロを目指します。</p> <p>④ 企業と連携し、発達障害の雇用や就労支援に関する啓発・情報交換が出来る取り組みを実施します。</p> <p>⑤ 川崎市、横浜市を中心とした関係機関と連携し、発達障害者支援の情報収集を行います。</p> <p>⑥ 高津区PTA協議会と連携し、地域区民を対象とする、発達障害者の就労に関する情報発信のイベントを行います。</p>